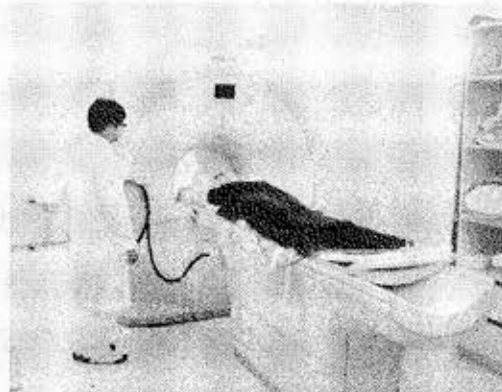


訪日客に人間ドック紹介

マーンが専用予約サイト

人間ドック予約サイトのマーン(東京・港、山口博道社長)は訪日客用の専用サイトをつくる。中国用を11月に開設済みで、2016年中にベトナム用を加える。同年に100の医療施設を利用可能にする。富裕層の医療ツーリズムの需要が伸びるとみており、発見したがんを治療する病院を訪日客に紹介していくことも検討している。



日本の人間ドックは中国よりも質が高いという

中国に続きベトナム用も

中国の訪日客向けの人間ドック予約サイトは、中国最大の旅行サイトで米ナスダック上場の「シートリップ」と提携して開いた。利用者はシートリップのサイト内で、中国語に訳された人間ドックのメニューや受けた病院、日程を選ぶ。

人間ドックの検査項目は日本で通常受けるものと変わらない。がんの早期発見に有用とされる陽電子放射断層撮影装置(PET)検査や磁気共鳴画像装置(MRI)検査、血液検査などを行う。

日本での人間ドック受診は、中国よりもサービスの質や精度が高いとして、富裕層を中心に需要

が大きいという。

価格は3万〜40万円ほど。

人間ドックの受診料の他に、受診日前日に行う問診票記入のサポートや注意事項の説明、当日の通訳、送迎、健診後の結果報告書の翻訳などがサービス料として含まれる。航空券やホテルはパッケージにしない。

ベトナムでも現地旅行サイトと提携し、予約サービスが始める。加えて16年に、健診でがんが見つかった利用者に日本で治療できる病院を紹介するサービス始める。10の医療施設との提携にめどをつけた。

今年11月からの人間ドックの受け入れは東京都内3カ所ではじめたが、16年中に100施設に増や

す。山口社長は「病院は集客のためサービスを充実させたいというニーズを持つ」と指摘し、外国人受け入れに関心を持つ病院は増えるとみる。

マーンはゴルフ・医療分野でIT(情報技術)事業を営む三和システム

(茨城県ひたちなか市)から分離、15年2月に設立された。国立がん研究センターや日本赤十字社など700を超す医療機関と提携しており、累計数十万人がマーンを通じて人間ドックを利用した。

(夏目祐介)